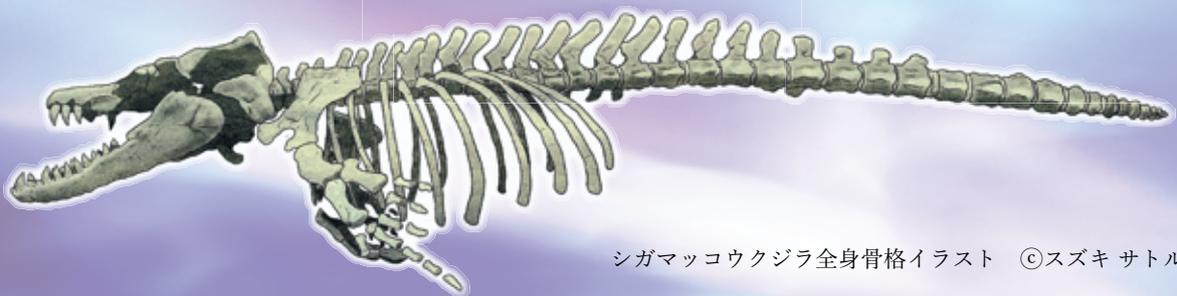


あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.237 2021.11.1

1300万年の時を超えて蘇る！

四賀の宝「シガマッコウクジラ」



シガマッコウクジラ全身骨格イラスト ©スズキ サトル



シガマッコウクジラ復元イラスト 監修：木村敏之 ©スズキ サトル

約1300万年前の松本の海に生息したマッコウクジラ類で、四賀地区に敬意を表して「シガマッコウクジラ」と命名されました。「カミツキマッコウ」という異名を持ち、以下のような面白い特徴があります。

上アゴと下アゴに強靱な歯が並んでいる→トドやアシカなどを食べる肉食海生哺乳類
現生のマイルカのような頭部→現生のマッコウクジラに比べて脳の油（マッコウ油）が発達していない

もくじ

誌上博物館 ◇ シガマッコウクジラ発掘物語	2
博物館のノートから ◇ 休館通信～新博物館への道～	3
博物館TOPICS ◇ 企画展「今昔はかり展」—上皿天秤—	3
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく	4

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況などによって急遽中止となる場合がございます。開催の可否などについては、各館にお問い合わせください。

シガマッコウクジラ発掘物語

1 はじめに

山国信州は遙か昔海の中でした。時代にして、およそ1,300万年前（新生代新第三期中新世中期）のことです。太古の長野県の大部分では、「フォッサマグナの海」という深い海が広がっていました。当時の状況を示唆するものとして、松本市四賀地区からは魚やクジラなどの海の生物の化石が発掘されています。

昭和61年（1986）10月、地元の小学5年生の山田智久君が一つの歯の化石を発見しました。この発見が後の発掘調査で世界的な大発見となり、松本市四賀が化石の宝庫として知られるはじまりとなりました。

本稿では、山田少年が発見し、貴重な化石となった「シガマッコウクジラ全身骨格化石」発掘のストーリーを紹介します。

2 マッコウクジラ化石の発掘

当館の主役ともいえる「シガマッコウクジラ全身骨格化石」発掘の始まりは、山田少年の小さな発見からでした。当時の東筑摩郡四賀村は、「化石はく製館」の開館に向け、建設工事の最中にありました。

昭和63年（1988）5月22日、四賀村長藤森昇氏によるタガネ入れが行われ、信州大学の田中邦雄博士らの指導による発掘調査が始まりました。発掘場所は、四賀村反町（現松本市反町）の保福寺川沿岸です。現在は、化石の発掘地に標柱が建てられています。

化石を雨風から保護する措置などを行い、昭和63年7月3日、松本石創会の協力を得て掘り上げ作業が開始されました。約10名の発掘メンバーの並々ならぬ努力により、無事掘り上げ作業が終了し、化石は錦部保健センターの化石館開館準備室に搬入されました。



化石発掘調査団メンバー（昭和63年5月23日撮影）

3 四賀村化石館の開館とシガマッコウクジラ

搬入後、クリーニング作業（余分な石を削り、化石を掘り出すこと）が始まりました。この作業は、専門家らが休みなしで約2年をかけて行った気の遠くなるようなものでした。貴重な化石の発見により、平成元年（1989）4月、当初の名前を変更し、「四賀村化石館」が開館し、平成2年には化石のクリーニング作業が終了しました。

平成2年8月27日にアメリカのバーンズ博士と廣田清治氏が来館し、化石の詳細な調査研究が行われました。その後平成6年に、廣田氏・バーンズ博士がこの化石をマッコウクジラの新種スカルディセタスとして論文を発表し、同年5月4日には、「シガマッコウクジラ」という和名が付けられました。

平成17年、「シガマッコウクジラ全身骨格化石」が長野県天然記念物に指定されました。翌年には、群馬県立自然史博物館の長谷川善和博士らがこの化石の再調査を行い、新属新種のブリグモフィゼテル属（和名：カミツキマッコウ）として論文を発表し、これが現在の定説となっています。

4 終わりに

シガマッコウクジラが泳いだ時代はおよそ1,300万年前とされています。信州の海を泳いでいた名もなきクジラは、奇跡的に地層に残り、多くの人々の努力を経て、シガマッコウクジラとして再び生き返りました。化石は私達に当時の様子を教えてくれるタイムマシンのようなものだと思います。私達が化石を発掘したり、見ることができるのは当たり前のことではありません。天文学的な確率で化石が残り、多くの先輩方の尽力があって見る事ができています。そんな偶然と努力の産物に触れ、太古の信州の海に耳を傾けてはいかがでしょうか。

（松本市四賀化石館 学芸員 / 小林駿）

参考文献

- ・市川恵一「シガマッコウクジラ発掘日誌」（松本市四賀化石館）
- ・木村敏之「クジラ類の進化とシガマッコウクジラ」『山国信州は海だった』（松本市四賀化石館、2015）
- ・『四賀村誌』（四賀村誌編纂会、1978）
- ・木村敏之、長谷川善和、ローレンス G. バーンズ「群馬県及び茨城県から産出したマッコウクジラ類化石」『群馬県立自然史博物館研究報告第10号』（群馬県立自然史博物館、2006）

休館通信 ～新博物館への道～

今回は現在製作中の新博物館の展示のなかから、導入展示の「松本データベース」を紹介します。

新博物館には常設展示室、特別展示室の他に1階に導入展示を設けます。市民や初めて松本を訪れた方に、松本の今を知っていただくための、「博物館への入り口」であり「松本探訪の始まり」となるように内容を考えています。

県内で最も広い市域と約2,600mの標高差には、変化に富んだ豊かな自然と、それぞれの環境に合わせて生活してきた人々の歴史・文化があり、松本を特徴づける魅力は多岐にわたります。

導入展示でいかに松本の多様な魅力を伝えていくか。その一つとして「松本データベース」の製作を進めています。デジタルサイネージに多くの写真を表示し、タッチするとその場所や建物、行事などの情報を表示するものです。

松本の今を伝えるため、新たに写真撮影も行いました。学芸員が知らないことを来館者に伝えることはできません。直接現地に行くことで、今まで

播隆窟から槍ヶ岳を見上げる



知らなかったこと、初めて見た景色など、多くの松本の魅力を再発見できました。自分たちが感動したことを来館者にも感じてもらいたい。そのためには来館者の皆さんも現地に行き、実物や風景を見てほしいと思っています。博物館の導入展示がそのきっかけとなるように、魅力的な写真で情報を発信するコンテンツとしていきます。

(松本市立博物館 学芸員 / 福沢佳典)

松本市はかり資料館 Tel.0263-36-1191

博物館 TOPICS

企画展「今昔はかり展」—上皿天秤

私たちの生活は新型コロナウイルスにより一変し、ワクチンや治療薬の研究が続けられています。

日本の医学は、明治時代には漢方医学から西洋医学へと移り変わり、薬も生薬中心の漢方薬から西洋の薬へと替わってきました。薬の分析や実験が行われるようになり、より正確にはかるために上皿天秤が使われるようになりました。薬は量によって「毒」にも「薬」にもなり、昔も今も、より正しくはかることが求められます。



調剤用上皿天秤 大正～昭和時代初期

調剤用の天秤には、天秤の用途によって感量（天秤を動かすために必要な最小量）の違う3つの名前があり

ます。感量の大きい順に調剤・毒薬・化学用天秤と呼ばれています。感量の少ない天秤は風や温度の影響を受けにくくするために、ガラスケースに入っています。

今回の企画展では、調剤用の上皿天秤と大正・昭和時代の売薬用の袋など関連資料を展示します。

薬を正しくはかるという実用から改良されてきた上皿天秤ですが、そのフォルムから機能美さえ感じられます。長い年月、医療の一端を担ってきた上皿天秤を、この時期にご覧ください。

(松本市はかり資料館 学芸員 / 遠山順子)

企画展「今昔はかり展」

【会期】10月23日(土)～12月26日(日)
※月曜休館、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【会場】松本市はかり資料館

【料金】通常観覧料(大人個人200円、中学生以下無料)

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/> まる博 検索

館名称	9月	10月	11月	12月	2022年 1月
松本民芸館	■企画展「藍」 料金は通常観覧料 9/18(土)～2022/3/13(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)				
旧制高等学校記念館	■「開校100年記念展 一松江、佐賀、弘前、水戸、山形」 料金は通常観覧料 10/16(土)～12/5(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)				
重要文化財馬場家住宅	■「松本平の御柱展」 料金は通常観覧料 12/4(土)～1/30(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)				
松本市歴史の里	■建築講座パネル展「街を彩った擬洋風建築」 料金は通常観覧料 9/22(水)～12/12(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)				

旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7602

第1回探古会(古文書読解講座) 「江戸時代の村の事件簿・追いはぎが出た 一筑摩郡百瀬陣屋文書を読む」



日時 11月23日(火・祝) 午前9時～正午
会場 松本市教育文化センター3階 視聴覚ホール
料金 500円(テキスト代として)
定員 40名(要予約・先着順)
対象 どなたでも
講師 青木教司氏/元松本城
管理事務所研究専門員・
現NHKカルチャー「ゆっく
り、楽しい古文書」「古文
書読解入門講座」講師



令和2年度探古会の様子

持ち物 筆記用具、飲み物(必要な方)
申込み 11月6日(土)午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

しめ縄作り教室

日時 12月5日(日) 午前9時～正午
会場 松本市教育文化センター2階 206会議室
料金 無料
定員 25名(要予約・先着順)
対象 どなたでも
(小学校3年生以下の
児童は保護者同伴)
講師 荒田直氏、ほか3名
持ち物 はさみ、飲み物(必要な方)
申込み 11月13日(土)午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ



令和2年度しめ縄教室の様子

お正月リース作り教室

日時 12月12日(日) 午前9時～正午
会場 松本市教育文化センター2階 206会議室
料金 無料
定員 5組(要予約・先着順)
対象 どなたでも(小学校3年生以下の児童は保護者同伴)
講師 宮坂ヤス子氏
持ち物 はさみ、飲み物(必要な方)
申込み 11月13日(土)午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

歴史の里から

☎0263-47-4515

歴史の里建築講座 現地見学会

地元で活躍する建築士の方々と一緒に街歩きをします。

日時 11月6日(土) 午前9時～正午(予定)
定員 15名(要予約・先着順)
料金 無料
講師 市内で活躍する一級建築士の皆さん
場所 蔵シック館(松本市中町蔵の会館)前集合(現地集
合・現地解散)
申込み 前日までに電話で歴史の里へ

親子はた織り体験

昔ながらのはた織り機で、「裂き織り」を体験して
みましょう。

詳しくは歴史の里ホームページをご確認ください。



四賀化石館から

☎0263-64-3900

化石教室「レプリカ作りコース」

石こうを使ってアンモナイトや三葉虫のレプリカを作ります。レプ
リカが出来上がったら、自分の好きなように色を塗って完成です。

日時 11月27日(土)、12月18日(土)
午前9時30分～11時30分 午後1時30分～3時30分
会場 松本市四賀化石館
受講料 500円
定員 午前・午後各20名(要予約・先着順)
対象 5歳以上(小学生以下保護者同伴)
申込み 11月9日(火)午前9時から電話で四賀化石館へ
※満員になり次第終了

本格的な学びを提供!大人のための化石教室

日時 第1回 12月19日(日) 午前9時～午後3時
第2回 1月22日(土) 午前9時～正午
第3回 2月26日(土) 午前9時～正午
会場 松本市四賀化石館
料金 各回1名 500円
定員 各回20名(要予約・先着順)
対象 高校生以上
申込み 12月1日(水)午前9時から電話で四賀化石館へ
※満員になり次第終了



化石クリーニングの様子
(講師:吉澤五美氏)

あとがき

先日、新博物館の建設現場を見学させていただきました。太い柱が立ち、中
の空間もできてきて、臍気ながら建物の形や大きさが分かってきました。私
たちも、新博物館に向けた展示や事業など、新博物館の建物に負けず気合を
いれて考えていきたいと思えます。

松本市立博物館 原澤知也

あなたと博物館 No.237

発行年月日/令和3年11月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <https://www.matsu-haku.com/>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社